



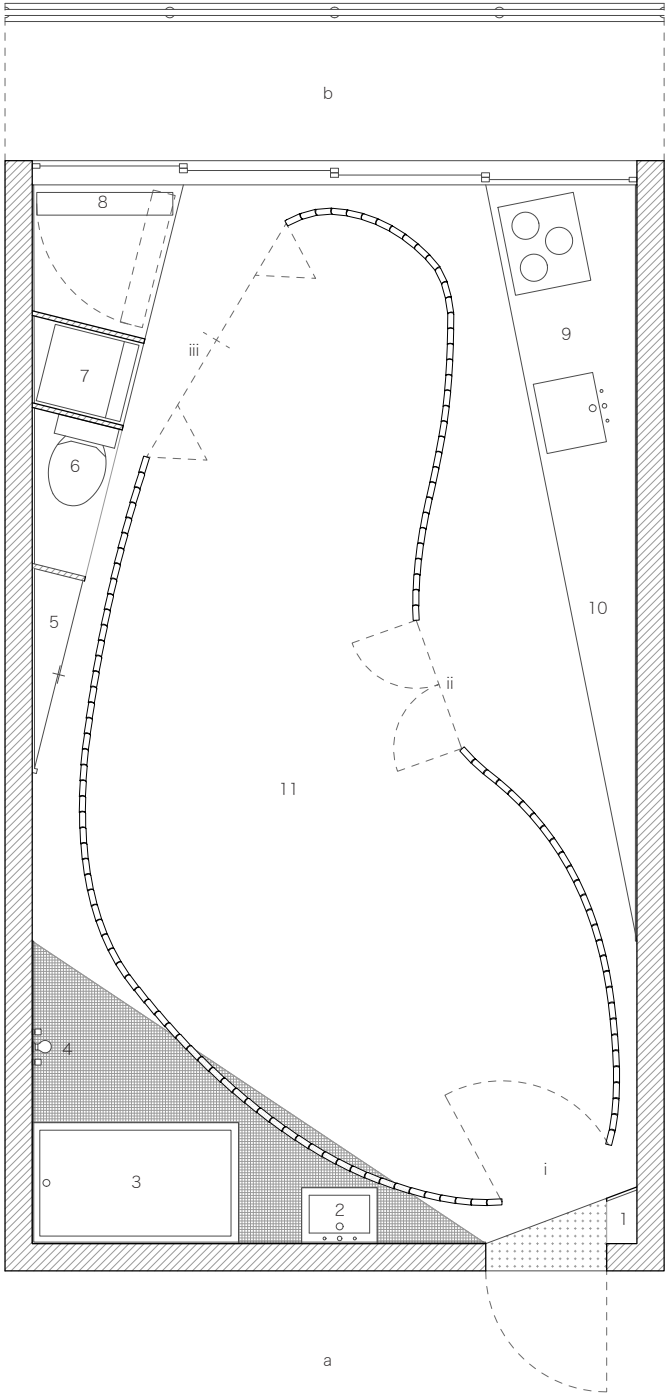
名前が遅れてやってくる場所

単身世帯を想定した1住戸は複数世帯を想定した場合の1住戸と比較すると、当たり前に部屋の数が限定されてしまいます。つまり、**部屋の数とは概ね居住人数と居室面積の関係によって変動する**ということです。今回はこの関係を重々理解した上で、住まう人間が1名でありながら、そのうえ居室面積が28m²の**1住戸に一人の居住者が複数の部屋を所有できる賃貸住宅の空間**を考えます。

部屋の内側に設置された建具以上建築未満の固定レールに依存しない「名前のない部屋」が生活に応じて変容します。この部屋は**外界と接続・寄生するすることでようやく意味が発生します**。つまり、接続・寄生した先の機能や用途を読み込むことでこの空間は出現し居住者本人が存在しなければ成立しない空間ということになります。この現象的な部屋の出現によって居住者は1住戸に複数の部屋、あるいは場所を生活に対応して出現させることで**28m²でありながらもずっとダイナミックな賃貸住宅の空間**を生活することが可能になります。

外界と接続してようやく意味をもつ部屋

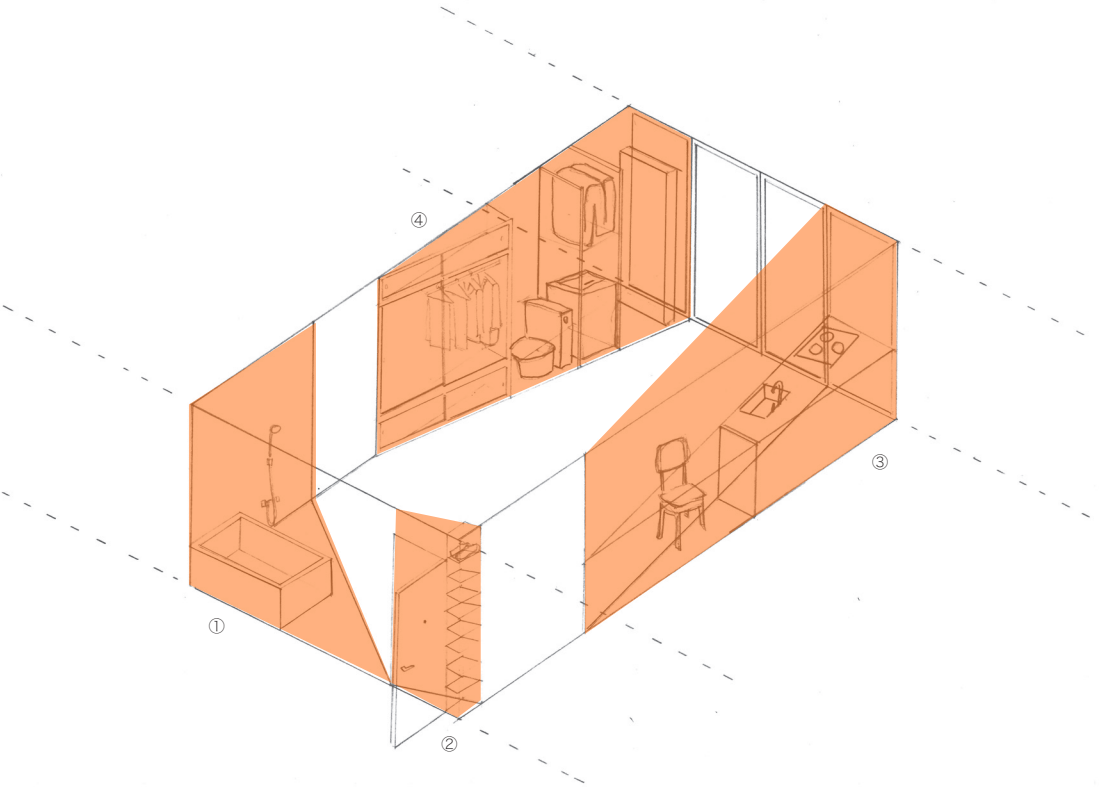
外界と接続してようやく意味を得るために可動式の囲いは天井と床の接触面に球体のゴムを干渉させることでボールペンのように自由に移動する囲いを室内に設置します。囲いと外界の接続方法は三つ大きさや位置の異なる開口部によって接続されます。



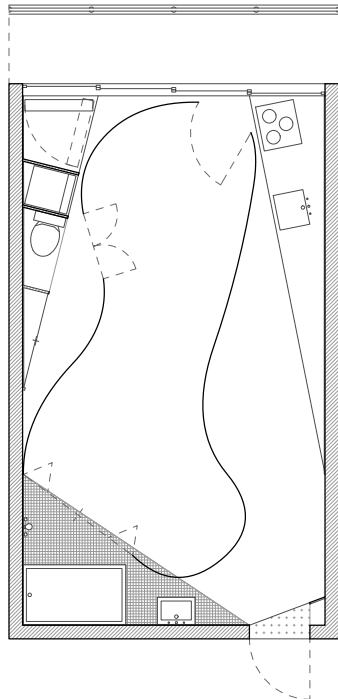
Plan S=1:50

3つのコーナー

居室の4つのコーナーに生活に必要な設備を集約する。可動式の囲いがその4つを読み込む度に部屋が出現し、囲いに名前が与えられる。

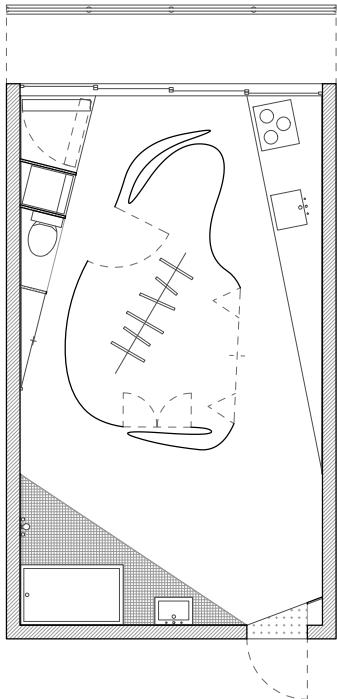


Axonometric drawing S=1:100



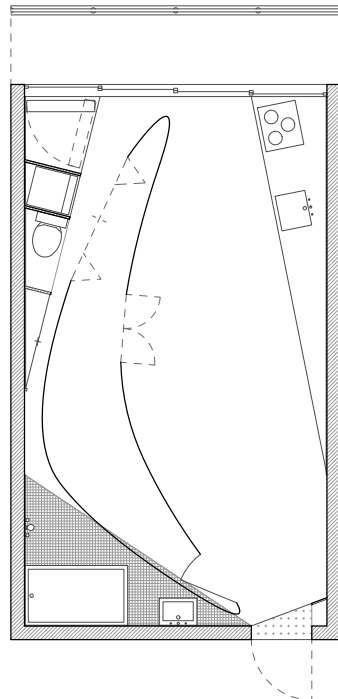
風呂へ採光をする脱衣所

浴槽とシャワーが用意されたコーナーに扉をつけるとなんでもなかったそれは脱衣所という名前が遅れてやってきます。また、バルコニーの方へ伸ばすと風呂のための開口部が仮説的に完成します。



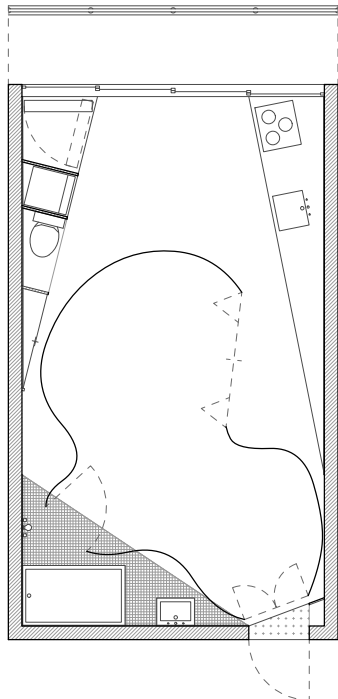
天気が悪い時の部屋干し所

天気が悪いと洗濯物がどんどん溜まる原因になります。とはいえ室内へ干すにしても生活風景へその様子が関わってくるのは気が散るし、料理した時の匂いがついてしまっせっかく洗濯したのに台無しです。なので、乾燥効率のことも考えて空調期の真下に囲いを作りました。



仕切りとなる部屋

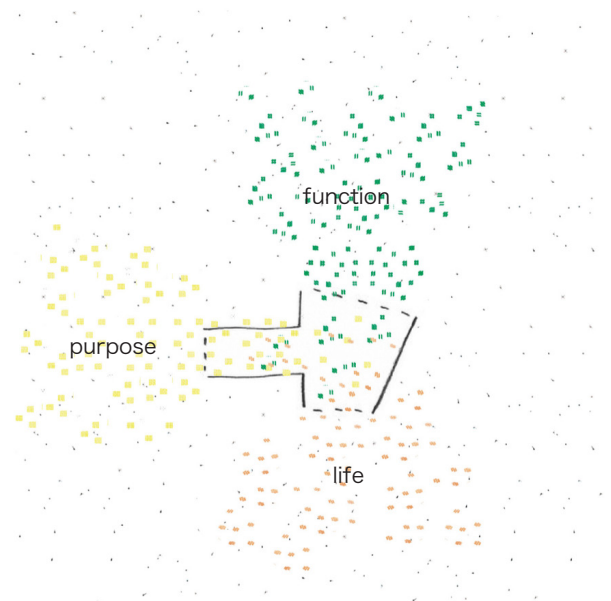
名前が後からつく可動式の部屋は少し動かすのがめんどくさい時があります。そんな時はダイナミックに大きな仕切りとして扱ってみることにします。あるいはカーテンのようでもあるかもしれません。



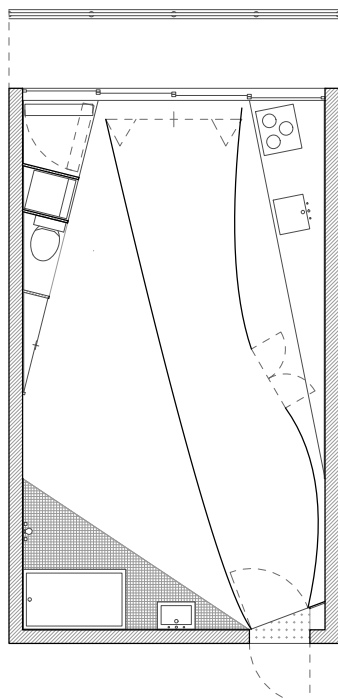
一瞬ポストになった部屋

名前が後からつく可動式の部屋にたまたまいた時に配達員からのピンポンが鳴りました。腰高窓が一番近接していたので、その窓を開けて郵便物を受け取りました。ドアを開けて受け取った訳でもないのに、なんとなく今自分のいる場所が一瞬ポストの内部であるような気がしました。

機能や用途を読み込むことで出現する空間

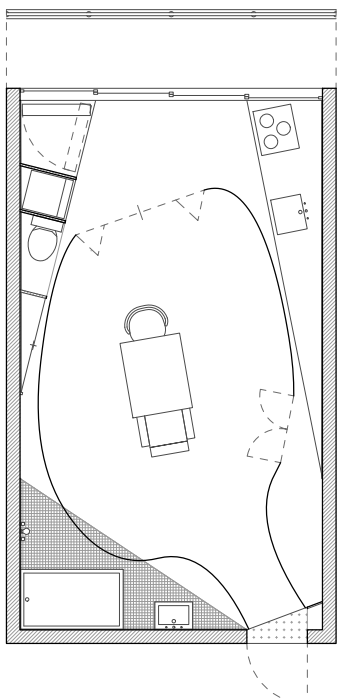


接続先の機能や用途、あるいは接続に必要となった生活を読み込む（インストール）ことで、多様に空間の性質を変容させ結果的にそれが**居住者の認識の中で複数の部屋を所有する**ということに連結する。



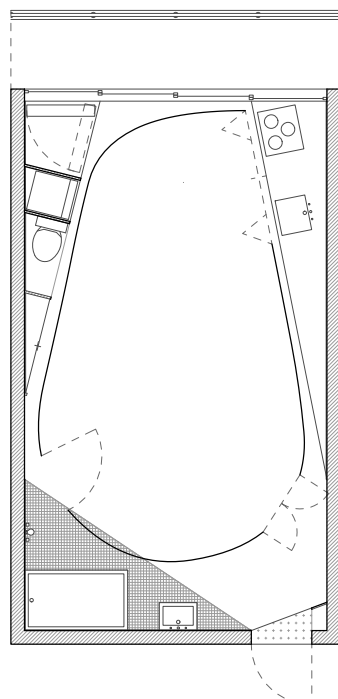
部屋を消失させる部屋

玄関を長時間開けっぱなしにして大量の荷物を室内へ運ぶ時があります。同じ階に住む住人が部屋の前を通過する時は互いに気まず状況といえます。それを少しでも回避するため部屋を消失させる部屋を作りました。



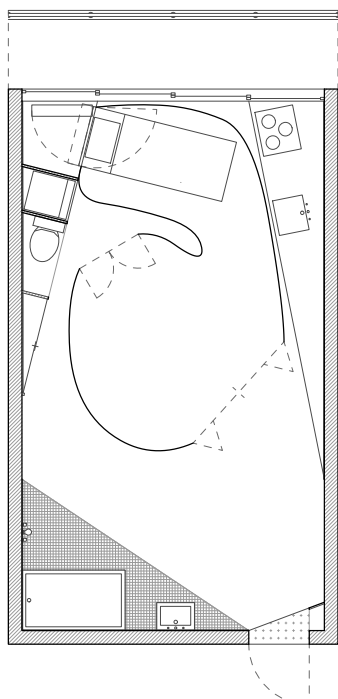
客室

在宅労働をする人なら自宅にお客さんが訪れることがあります。そんな時はいかに生活用品を隠蔽できるかということが互いの仕事効率を向上させる鍵になります。なので、玄関からそのまま入室できる客室を作ってみました。



ダイニングキッチン

キッチンにくっつけて壁をぐるっと回すことで部屋面積の大部分をダイニングキッチンとして認識することが可能になります。



寝室

回転式のベッドは利用しないときに日光へ表面を向けていゝためダニやノミなどを殺虫する効果を促します。利用する時にはベッドの幅とマッチするドアに挿入することで就寝に集中できる空間をつくることができます。